



## 2023年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年8月9日

上場会社名 株式会社FUJIIジャパン  
コード番号 1449 URL <https://www.fujijapan.net/>

上場取引所 札

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 佐々木 忠幸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部部长 (氏名) 山内 将之

TEL 011-299-5361

四半期報告書提出予定日 2023年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第2四半期の業績(2023年1月1日～2023年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	744	7.0	2		5		4	
2022年12月期第2四半期	801	5.4	22		19		13	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	2.01	
2022年12月期第2四半期	6.30	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		%
2023年12月期第2四半期	860		337			39.2
2022年12月期	816		333			40.8

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 337百万円 2022年12月期 333百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期		0.00		0.00	0.00
2023年12月期		0.00			
2023年12月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年12月期の業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,715	10.5	41		42		27		13.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期2Q	2,130,000 株	2022年12月期	2,130,000 株
期末自己株式数	2023年12月期2Q	株	2022年12月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期2Q	2,130,000 株	2022年12月期2Q	2,130,000 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが5類へと移行されたことで経済活動の正常化に向けた動きが加速した一方、エネルギーや原材料価格の上昇、ウクライナ情勢の長期化や世界的なインフレ、各国の政策金利の引き上げによる金融不安等の影響により、国内外での見通しは依然として先行き不透明な状況が続いております。

リフォーム業界におきましては、コロナ禍による外出自粛により、テレワークが普及し在宅時間が増加したことなどからリフォームへの関心が高まってきておりますが、行動制限がなくなり消費者が旅行や飲食などリフォーム以外の支出の増加も予想され、さらに、円安やウクライナ侵攻、ウッドショックによる建築資材の高騰が続くなど引き続き厳しい事業環境が続いております。

このような経済環境の中、当社では、札幌支店の北ブロックと仙台支店・横浜支店・千葉支店・埼玉支店の南ブロックに分け、この二本柱による営業展開を図り、前事業年度後半から引き続き粗利益率の向上にも努めて参りました。また、地域に根差した採用と人材育成による営業力強化に注力した体制作りを継続するとともに、引き続き感染症対策を慎重に行いお客様への対応に十分な注意を払いながら営業活動を行ってまいりました。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、円安等に起因するエネルギー、原材料価格の高騰や大幅な物価高等による消費者のマインド低下からの回復が未だ見られず、特に関東圏を中心に受注件数が伸びませんでした。なお、埼玉支店については、支店開設当初から新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われ営業活動の自粛を余儀なくされてきましたが、今般、経営資源を集中することで業務効率を図るべく、営業活動を横浜支店へ集約し閉鎖することといたしました。

これらにより当第2四半期累計期間における売上高は744,660千円（前年同期比7.0%減）、営業利益は2,246千円（前年同四半期は営業損失22,354千円）、経常利益は5,087千円（前年同四半期は経常損失19,933千円）、四半期純利益は4,276千円（前年同四半期は四半期純損失13,411千円）となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

#### (外壁リフォーム工事)

外壁リフォーム工事については、営業部において南ブロックの受注数が大幅に前年より減少したものの、全体の粗利益率の向上により、売上高は643,880千円（前年同期比3.7%減）、セグメント利益は69,790千円（前年同期比154.6%増）となりました。

なお、地域ごとの売上高の内訳としては、北ブロック（北海道エリア1支店）396,936千円（前年同期比14.6%増）、南ブロック（東北エリア1支店、北関東エリア1支店、南関東エリア2支店）246,943千円（前年同期比23.3%減）となりました。

#### (その他リフォーム工事)

その他リフォーム工事については、個人向け工事の受注額が増加したことにより、売上高は70,934千円（前年同期比9.8%増）、セグメント利益は2,232千円（前年同期比113.1%増）となりました。

#### (材料販売)

材料販売については、受注数が前期から大幅に減少し、売上高は29,845千円（前年同期比56.2%減）、セグメント損失は322千円（前年同四半期はセグメント利益7,153千円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は401,891千円となり、前事業年度末と比べ58,351千円増加いたしました。これは主に完成工事未収入金及び契約資産が82,760千円増加、未成工事支出金が7,206千円増加した一方で、現金及び預金が17,209千円減少、その他流動資産が13,594千円減少したことによるものであります。固定資産は458,867千円となり、前事業年度末と比べ14,222千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が12,639千円、長期前払費用が2,865千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は860,758千円となり、前事業年度末と比べ44,129千円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は280,178千円となり、前事業年度末と比べ59,251千円増加いたしました。これは主に工事未払金が47,473千円増加、買掛金が1,393千円増加、契約負債が3,115千円増加、預り金が1,929千円増加、その他流動負債が13,548千円増加した一方で、未払費用が7,035千円減少、損害賠償引当金が1,103千円減少したことによるものであります。固定負債は243,297千円となり、前事業年度末と比べ19,399千円減少いたしました。これは主に長期借入金が18,220千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は523,476千円となり、前事業年度末と比べ39,852千円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は337,281千円となり、前事業年度末と比べ4,276千円増加いたしました。これは四半期純利益4,276千円の計上により、利益剰余金が増加したためであります。

この結果、自己資本比率は39.2%（前事業年度末は40.8%）となりました。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における営業活動の結果獲得した資金は8,056千円（前年同四半期は営業活動の結果使用した資金97,711千円）となりました。

これは主として、税引前四半期純利益5,087千円に対し、仕入債務の増加額48,867千円、未払消費税等の増加額13,548千円、長期前払費用の減少額2,917千円、その他の増加額6,538千円、減価償却費15,989千円、法人税等の還付額12,308千円の資金増加要因があった一方で、売上債権及び契約資産の増加額83,712千円、棚卸資産の増加額4,800千円、未払費用の減少額7,035千円の資金減少要因があったことによるものです。

投資活動の結果使用した資金は、6,455千円（前年同期より164,386千円減）となりました。

これは主として、有形固定資産の取得による支出4,141千円の資金減少要因があったことによるものです。

財務活動の結果使用した資金は、18,810千円（前年同四半期は財務活動の結果獲得した資金221,746千円）となりました。

これは主として、長期借入金の返済による支出18,220千円の資金減少要因があったことによるものです。

この結果、当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、66,180千円となりました。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、「2022年12月期決算短信」における通期の業績予想から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	83,389	66,180
完成工事未収入金及び契約資産	86,219	168,980
売掛金	4,838	5,789
製品	42,776	41,699
原材料及び貯蔵品	81,941	80,613
未成工事支出金	14,752	21,958
前払費用	10,493	11,136
その他	19,127	5,532
流動資産合計	343,540	401,891
固定資産		
有形固定資産		
建物	199,501	200,153
減価償却累計額	△25,463	△29,426
建物（純額）	174,038	170,726
機械装置及び運搬具	151,128	151,128
減価償却累計額	△15,244	△24,610
機械装置及び運搬具（純額）	135,883	126,517
工具、器具及び備品	43,003	45,702
減価償却累計額	△34,500	△36,577
工具、器具及び備品（純額）	8,503	9,124
リース資産	10,814	10,814
減価償却累計額	△4,073	△4,655
リース資産（純額）	6,740	6,158
土地	92,005	92,005
有形固定資産合計	417,171	404,532
投資その他の資産		
敷金及び保証金	9,774	9,697
保険積立金	10,891	12,251
長期前払費用	19,945	17,080
繰延税金資産	14,056	14,056
その他	1,250	1,250
投資その他の資産合計	55,917	54,334
固定資産合計	473,089	458,867
資産合計	816,629	860,758

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,003	8,396
工事未払金	63,916	111,390
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	36,440	36,440
リース債務	1,185	1,093
未払金	9,273	8,307
未払費用	36,319	29,284
未払法人税等	536	810
契約負債	7,210	10,326
預り金	2,445	4,375
完成工事補償引当金	4,970	5,090
受注損失引当金	—	593
損害賠償引当金	1,103	—
その他	523	14,072
流動負債合計	220,927	280,178
固定負債		
長期借入金	232,480	214,260
リース債務	5,493	4,994
預り敷金保証金	24,724	24,043
固定負債合計	262,697	243,297
負債合計	483,624	523,476
純資産の部		
株主資本		
資本金	65,424	65,424
資本剰余金		
資本準備金	20,424	20,424
資本剰余金合計	20,424	20,424
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	247,156	251,433
利益剰余金合計	247,156	251,433
株主資本合計	333,004	337,281
純資産合計	333,004	337,281
負債純資産合計	816,629	860,758

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高		
完成工事高	732,922	714,814
材料売上高	68,158	29,845
売上高合計	801,080	744,660
売上原価		
完成工事原価	464,713	429,202
材料売上原価	56,687	25,002
売上原価合計	521,401	454,204
売上総利益	279,679	290,455
販売費及び一般管理費	302,033	288,208
営業利益又は営業損失(△)	△22,354	2,246
営業外収益		
受取利息	436	27
貸貸収入	1,713	1,713
受取保険金	468	2,416
債務免除益	999	—
その他	312	501
営業外収益合計	3,930	4,658
営業外費用		
支払利息	1,221	1,513
貸貸収入原価	216	304
その他	70	—
営業外費用合計	1,508	1,817
経常利益又は経常損失(△)	△19,933	5,087
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△19,933	5,087
法人税等	△6,521	810
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,411	4,276

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△19,933	5,087
減価償却費	11,302	15,989
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	100	120
損害賠償引当金の増減額 (△は減少)	—	△1,103
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	868	593
受取利息	△436	△27
支払利息	1,221	1,513
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△43,352	△83,712
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△60,456	△4,800
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△22,855	2,917
敷金及び保証金の増減額 (△は増加)	1,605	77
仕入債務の増減額 (△は減少)	33,445	48,867
未払消費税等の増減額 (△は減少)	—	13,548
未払金の増減額 (△は減少)	28,850	△174
未払費用の増減額 (△は減少)	△11,222	△7,035
預り敷金保証金の増減額 (△は減少)	△1,147	△680
その他の増減額 (△は減少)	3,849	6,538
小計	△78,161	△2,282
利息の受取額	436	27
利息の支払額	△1,478	△1,460
法人税等の支払額	△18,508	△536
法人税等の還付額	—	12,308
営業活動によるキャッシュ・フロー	△97,711	8,056
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△170,121	△4,141
貸付けによる支出	—	△1,897
貸付金の回収による収入	639	942
保険積立金の積立による支出	△1,359	△1,359
投資活動によるキャッシュ・フロー	△170,842	△6,455
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100,000	—
長期借入れによる収入	150,000	—
長期借入金の返済による支出	△17,010	△18,220
配当金の支払額	△10,660	—
リース債務の返済による支出	△583	△590
財務活動によるキャッシュ・フロー	221,746	△18,810
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△46,807	△17,209
現金及び現金同等物の期首残高	124,587	83,389
現金及び現金同等物の四半期末残高	77,779	66,180

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月10日 取締役会	普通株式	10,650	5.00	2021年12月31日	2022年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	外壁リフォーム工事	その他リフォーム工事	材料販売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	668,329	64,592	68,158	801,080	—	801,080
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,407	—	—	2,407	△2,407	—
計	670,737	64,592	68,158	803,488	△2,407	801,080
セグメント利益又はセグメント損失(△)	27,415	1,047	7,153	35,616	△57,971	△22,354

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△57,971千円であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	外壁リフォーム工事	その他リフォーム工事	材料販売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	643,880	70,934	29,845	744,660	—	744,660
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,141	—	—	3,141	△3,141	—
計	647,022	70,934	29,845	747,802	△3,141	744,660
セグメント利益又はセグメント損失(△)	69,790	2,232	△322	71,699	△69,453	2,246

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△69,453千円であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。